

事業所名 ハートピア出雲スマイル

支援プログラム

事業の種類 児童発達支援センターである児童発達支援 スマイル

作成日 2024年 10月 26日

法人の理念	障がいのある人のそれぞれの可能性、それぞれの能力を活かしながら、人と人とのつながりを大切に、その人のライフステージに応じて一貫したケアができる通所サービスと相談支援をめざします。 そのために、信頼される事業所、利用しやすい事業所であって、サービスの質と専門性の向上を追及し、障がい福祉事業の変革と新たな文化の創造に寄与します。		
支援方針	「ノーマライゼーション」と「バリアフリー」をキーワードとし、障がいのある人がその人らしい自立した生活ができるよう、あわせて地域社会との交流を深めることができるよう支援します。 1. 利用者一人ひとりの主体性と人権を重んじ、個々の能力に応じて生活の質（QOL）を高めるための支援をします。 2. 利用者にとって快適かつ安全な活動の場・生活の場を創り、専門性を高め信頼されるサービスを提供します。		
子どもの療育基本方針	1. 子どもが元気に楽しく過ごす環境を創ります。 2. 一人ひとりの子どもの可能性を信じ、生きる力を育成します。 3. 基本的な生活習慣を身につけさせ、社会適応能力を培います。 4. 愛情をもって、ほんの小さな進歩でも大きな喜びとして励まし続けます。 5. 療育のプロとしてその専門性を高めます。		
営業時間	8 時 30 分から 17 時 30 分まで	送迎実施の有無	なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	食事支援を通して様々な形態や味の食べ物を食べる経験を積み、食事の楽しさや摂食嚥下訓練を楽しく実施（おやつ提供）する。 全身の清潔と全身状態の観察を行い、心身の状態も合わせて確認する。 看護師による日常の健康状態のチェック、その他日常生活の援助を行う。様々な医療的デバイスに対応し日常的に医療的ケアを必要とする児の健康を維持する。 定時排泄を実施し、排泄習慣を身に着ける。衣服の着脱の練習を行う。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	運動・感覚	PT・OTによる計画的なリハビリとサーキットや制作活動等を通して運動機能の向上を図る。 前庭感覚・固有感覚・触覚・視覚・聴覚を遊びの中で経験しながら統合し、個々の成長を促す。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	認知・行動	個別訓練担当職員による計画的な訓練（読み書き、数、SST等）を実施し認知面の向上を図る。 写真や絵カード、スケジュール、タイマーなど視覚支援を行うことで指示を理解し、行動や切り替えができるように支援する。 その時季ならではの自然事象や行事にちなんだ遊びを取り入れ、季節を感じる。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	言語 コミュニケーション	STによる計画的なリハビリ（個別訓練、口腔ケア）の実施により言語能力や口腔機能の向上を図る。 非言語コミュニケーション（身振りやカード等）により他者に自己の意志を伝える練習をし、伝わった時の喜びを味わう。 支援者が介入しながら遊びや関わりを通して言葉の意味理解や表出を促す。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	人間関係 社会性	事業所スタッフと関わり人間関係を構築する。事業所スタッフと継続的に関わることにより、信頼関係を継続し安心感を得る。 見通しを持って安心して過ごしなが、他の利用児と一緒に活動参加ができるように支援する。 他の利用児との関わりを通し、同世代以外の年齢の利用児との関わりの中で、他者の存在を知る機会を得る。 小集団活動の中で他者と同じ体験を共有する楽しさを味わえるように支援する。 事業者スタッフや他の利用児と物・場の共有や貸し借り、適切な関わり等を経験する機会を設ける。 発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
家族支援	日常生活において、社会資源が足りているか確認し、必要であればアドバイスする。兄弟・姉妹の関わりやケアについて必要な情報を与える。 モニタリングの際などに、ご家族の生活状況やお困りごとを聴取する機会を作る。	移行支援	ライフステージの切り替え期を見据えた、地域の生活の場や育ちの場との交流や情報交換をする。 必要に応じて保育園、幼稚園、小学校、その他の関係機関での様子を聞いたり、訪問したりしながら支援方法やツールを共有・相談・提供する。
地域支援・地域連携	他の通所支援事業所との交流や情報共有をする。 地域連携会議への参加。	職員の質の向上	職員の各種勉強会や研修への参加。 職員間で報告・連絡・相談を大切にし、チームで支え合い、スキルを向上していく。
主な行事等	季節の行事。 近隣施設・公園への散歩。		

事業所名

ハートピア出雲スマイル

支援プログラム（重症心身障がい児）

事業の種類

児童発達支援センターである児童発達支援 スマイル

作成日 2024年 10月 26日

法人の理念	障がいのある人のそれぞれの可能性、それぞれの能力を活かしながら、人と人とのつながりを大切に、その人のライフステージに応じて一貫したケアができる通所サービスと相談支援をめざします。 そのために、信頼される事業所、利用しやすい事業所であって、サービスの質と専門性の向上を迫り、障がい福祉事業の変革と新たな文化の創造に寄与します。		
支援方針	「ノーマライゼーション」と「バリアフリー」をキーワードとし、障がいのある人がその人らしい自立した生活ができるよう、あわせて地域社会との交流を深めることができるよう支援します。 1. 利用者一人ひとりの主体性と人権を重んじ、個々の能力に応じて生活の質（QOL）を高めるための支援をします。 2. 利用者にとって快適でかつ安全な活動の場・生活の場を創り、専門性を高め信頼されるサービスを提供します。		
子どもの療育基本方針	1. 子どもが元気に楽しく過ごす環境を創ります。 2. 一人ひとりの子どもの可能性を信じ、生きる力を育成します。 3. 基本的な生活習慣を身につけさせ、社会適応能力を培います。 4. 愛情をもって、ほんの小さな進歩でも大きな喜びとして励まし続けます。 5. 療育のプロとしてその専門性を高めます。		
営業時間	8 時 30 分から 17 時 30 分まで	送迎実施の有無	なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	食事支援を通して様々な形態や味の食べ物を知る経験を積み、食事の楽しさや摂食嚥下訓練を楽しく実施（おやつの提供）する。 全身の清潔と全身状態の観察を行い、衣服の着脱行為による爽快感を得る。 看護師による日常の健康状態のチェック、その他日常生活の援助を行う。様々な医療的デバイスに対応し日常的に医療的ケアを必要とする児の健康を維持する。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	運動・感覚	PT・OTによる計画的なリハビリとサーキットや制作活動等を通して運動機能の向上を図る。 マッサージや全身の筋トレ、関節可動域訓練等の実施により固有感覚・皮膚感覚への刺激を促し身体図式を明確にすると共に側弯の予防や現状の維持を図る。 前庭感覚・固有感覚・触覚・視覚・聴覚を遊びの中で繰り返し経験しながら慣れと学びを促す。 口腔ケアにより口腔内の感覚受容体を刺激したり、味覚・臭覚に快の刺激を与えることにより、成功体験を積み、 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	認知・行動	写真や絵カード、スケジュールなど視覚支援を行うことで活動の見通しを持てるように支援する。 その時季ならではの自然事象や行事にちなんだ遊びを取り入れ、季節を感じる。 ポジショニングを行い、上肢を使った活動を促すことにより、能動的行動を芽生えさせ、成功体験を積み、 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	言語 コミュニケーション	STによる計画的なリハビリ（個別訓練、口腔ケア）の実施により理解・表出能力や口腔機能の向上を図る。 他者からの声に耳を傾け、視覚で認知する行為を自ら発信し行うことにより、他者からの反応が得られる喜びを積み、また、上肢や表情を変化させることなど自己表現や意思疎通を行う 体験を積み、 非言語コミュニケーション（身振りやカードの選択等）により他者に自己の意志を伝える練習をし、伝わった時の喜びを味わう。 個人の発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
	人間関係 社会性	事業所スタッフと関わり人間関係を構築する。事業所スタッフと継続的に関わることにより、信頼関係を継続し安心感を得る。 スケジュール提示などで見通しを持って安心して過ごせるよう支援する。 他の利用児との関わりを通じ、同世代以外の年齢の利用児との関わりの中で、他者の存在を知る機会を得る。 小集団活動の中で他者と同じ体験を共有する楽しさを味わえるように支援する。 発達段階に合った支援を行い成長発達を促す。	
家族支援	日常生活において、社会資源が足りているか確認し、必要であればアドバイスする。 兄弟・姉妹の関わりやケアについて必要な情報を与える。 モニタリングの際などに、ご家族の生活状況やお困りごとを聴取する機会を作る。	移行支援	ライフステージの切り替え期を見据えた、地域の生活の場や育ちの場との交流や情報交換をする。 必要に応じて保育園、幼稚園、小学校、その他の関係機関での様子を聞いたり、訪問したりしながら支援方法やツールを共有・相談・提供する。
地域支援・地域連携	他の通所支援事業所との交流と情報共有をする。 地域連携会議への参加。	職員の質の向上	職員の各種勉強会や研修への参加。 職員間で報告・連絡・相談を大切にし、チームで支え合い、スキルを向上していく。
主な行事等	季節の行事。 近隣施設・公園への散歩。		